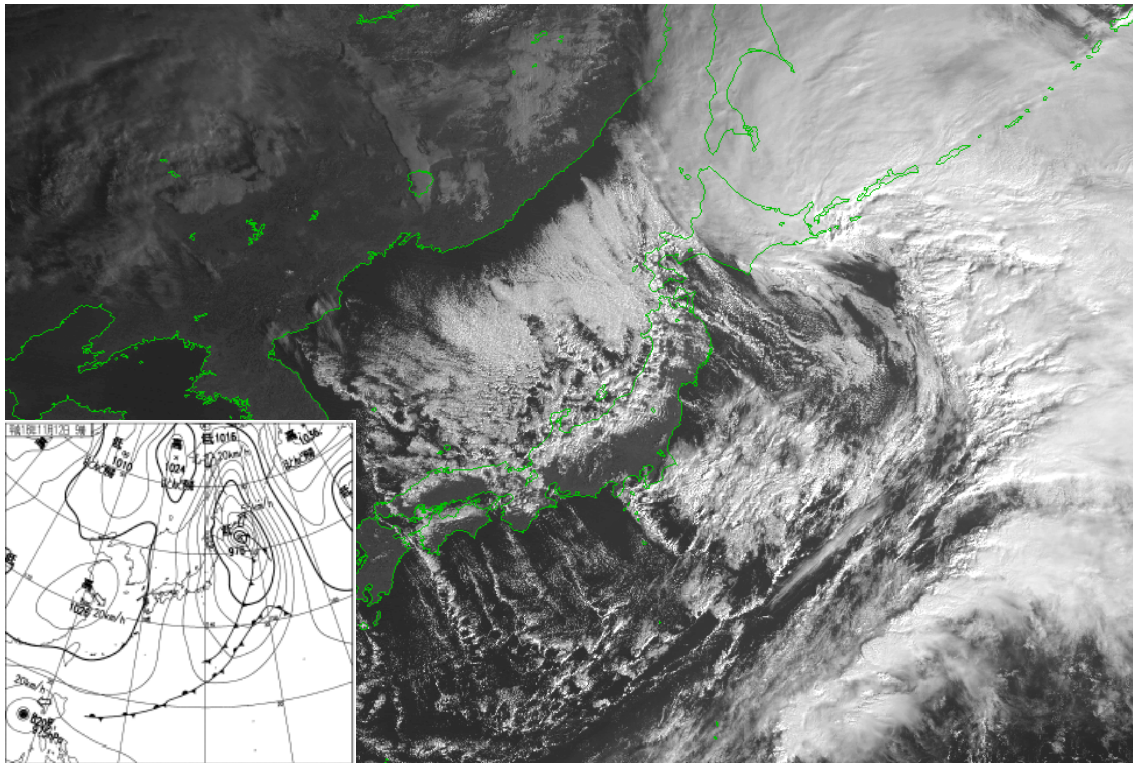


今月の気象衛星画像 (2006年11月)



可視画像 (2006年11月12日9時) と同時刻の地上 (速報) 天気図

木枯らし1号

木枯らし1号は秋から初冬にかけて、日本付近を低気圧が通ったあと、冬型の気圧配置になって初めて吹く強い北寄りの風のことである。

11月12日、日本付近では前線を伴った低気圧が関東地方の東海上を発達しながら北海道の東に達し、一時的に西高東低の強い冬型の気圧配置となった。このため、東日本を中心に北西の季節風が吹き東京で最大瞬間風速 18.9 m/s を観測し「木枯らし1号」となった。

写真は12日9時の可視画像である。北海道の東には発達した低気圧の中心を示唆する雲域が見られ、そこから南側に伸びる雲バンドは低気圧の寒冷前線に沿うものである。また、日本海中部から北部にかけて強い寒気移流を示唆する帯状の対流雲が見られる。

同日、この強い冬型の気圧配置により札幌市、青森市、若松 (福島県)、松本 (長野県) などで初雪、大平山 (秋田県)、赤城山 (群馬県)、金北山 (新潟県) 東方連山 (長野県)、扇ノ山 (鳥取県) などで初冠雪を観測した。また、翌日13日は各地で今季一番の冷え込みとなり、朝の最低気温が東京の八王子で 2.3℃ (平年より 4.1℃低い)、東京都心でも 9.2℃まで下がり、今季初めて 10℃を下回った。

(気象衛星センター)